

キャリアコンパスプロジェクト(CCP)

倉敷市立精思高等学校 キャリアコンパスプロジェクト委員会

活動の目的

小中学校時代に不登校や困難な環境を経験した生徒が半数以上を数える本校では、基礎学力はもとより、対人関係力やコミュニケーション力を身に付けさせること、さらには生徒一人ひとりの多様な個性や能力を引き出すことが、自己肯定感の高揚や今後の社会との関係性の深化に結び付いていく。

こうした実情を考慮し、生徒に地域や地元企業を知り、触れ合う機会を提供したり、生徒一人ひとりの個性や適性を踏まえた学習ならびに進路指導を充実させ、これまでの出口指導において、生徒一人ひとりの可能性を最大限追求した進路指導へと発展させるために、間断なく生徒のキャリア意識を高める取り組みを企画・実施した上で、将来の学校の目指す指針を具体化することを目的とした。

活動の内容及び経過

キャリアコンパスプロジェクト委員会を中心となって、学校全体で以下の5つの取り組みを展開した。

1 企業見学・企業訪問

岡山県内2社の職場を訪問し、商品の製造工程や従業員の方から仕事内容の説明を受けた。実際の企業を見学することで、将来の職業について具体的に考えられるようになり、その後の、企業見学や個別指導を生徒自身が主体的に取り組むことができるようになった。また、本校が平成24年度から開催しているチャリティーバザーのために商品提供していただいている企業を、全教職員が訪問し、商品提供や新規求人、インターシップの受け入れ等を依頼するとともに、現場の第一線で働く社員から現場の実態を聞き、それを総合的な学習の時間等を利用してキャリア教育の指導に役立てた。

2 目的別特別講座

生徒一人ひとりの個性や適性の伸長を図り、進路実現の土台作りの一環として、教員個々が生徒のキャリア形成に繋がる講座を開講し、生徒一人ひとりが自己の進路を踏まえた講座を受講した。開講講座は、漢字検定をはじめとした各種検定資格取得講座や金融経済を学ぶ講座、遺産など多岐にわたる内容であった。

3 キャリア講演会

まず8月下旬に、県内教職員を対象として、両備ホールディングス株式会社代表取締役社長 松田久氏による講演会を実施した。次に、1月上旬に、本校教職員と生徒を対象として、公益財団法人理事長 大原あかね氏による講演会を実施した。

4 地域住民との交流行事「わかばフェア」

平成24年度から継続実施しているチャリティーバザーに加え、模擬店やキッズコーナー、産業教育の魅力発信を目的とした学校間連携商品販売、災害被災地支援プロジェクトにかかるポスターセッションを開催した。生徒は準備から当日の運営まで与えられた役割を責任を持って遂行し、売上最高額を記録するとともに、来場者のほとんどからは本校の取り組みに対して高い評価を得ることができた。

5 オリジナル生徒手帳の開発

全校生徒を対象に、1学期にオリジナル手帳製作担当者がスケジュール管理の重要性とスケジュール手帳記入のポイントについて講義を行い、試作品を配布した。2学期に生徒から試作品の使用感や様式(手帳の大きさや月間・週間スケジュールのレイアウト等)についての意見を集約し、手帳の原案作成を行った。また、手帳作成担当教員以外からも試作品について、アドバイスをいただき、最終原案を作成し完成させた。



平成29年度「わかばフェア」の様子

活動の成果・効果

企業訪問において、実施後の教員アンケートから「よい勉強の機会になった」「学校を知ってもらうためにも、今回のように企業を訪問することは良い」など前向きな意見が多く、教職員の就職指導に対する意識が高まった。

目的別特別講座においては、平素の教材研究とは異なり、助成金を有効に活用して、様々な工夫や仕掛けを織り込む様子が見られた。生徒対象アンケートでは、約90%の生徒が「とても役立つ」「役に立った」と回答し、実りある取り組みであったと考えられる。

キャリア講演会においては、県内産業界を代表する2名の経営者を招き、校外からも含め多くの参加者に対し、教育に求められる人材育成やキャリア教育の新たな示唆をいただく絶好の機会となった。

わかばフェアにおいては年々、完成度や魅力が増し、特に今年度は助成金を、キッズコーナーや模擬店など幅広い年齢層を対象にしたイベントに活用させていただくことで、生徒に幼児や高齢者をはじめ多くの来場者に対するおもてなしの心を育てることができたことは大きな成果であったといえる。また来場者のアンケート調査からも地域住民をはじめ学校関係者や行政からも一定の評価をいただいていることが見て取れる。

オリジナル生徒手帳の開発においては、オリジナル手帳を作成・活用することで、生徒自身が進路を意識し、学校生活をはじめ、勤労や私生活に関するスケジュールや行動を記録し整理することが可能となった。とりわけ、年度末に実施している進路体験レポート等を通して生徒自身が自らのキャリア発達について振り返り、自己の成長を確認し進路実現の一助となっている。

今後の課題と問題点

今回取り組んだ活動の中には、先進的な取り組みと発展途上の取り組みがあるが、個々の取り組みについてキャリア教育、他ならぬ生徒の進路実現とどのように結びついているのか、どのような資質や能力を身に付けさせるのかを、さらに具体化させる必要がある。

- 代表者：寺岡直樹 ●所在地：倉敷市八王寺町
- TEL：086-422-0387 ●E-MAIL：ts1m73@kurashiki-oky.ed.jp
- URL：http://www.kurashiki-oky.ed.jp/seishi-h/index.html
- 設立年：1951年 ●メンバー数：120名